

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

平成30年10月入学（医科学専攻）
（総合薬品科学専攻）

平成30年6月

千 葉 大 学

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

(平成30年10月入学)

1. 募集人員

| 専攻名 | 募集人員 |
|----------|-------------|
| | 平成30年度10月入学 |
| 医科学専攻 | 若干名 |
| 総合薬品科学専攻 | 若干名 |

2. 出願資格

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び平成30年9月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年9月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年9月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年9月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年9月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年9月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 平成30年9月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものと及び平成30年9月までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者については、3ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

平成30年7月24日（火）から7月26日（木）まで

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：応募に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上出願してください。

(2) 願書提出先

- ① 医科学専攻志願者 千葉大学医学部大学院学務係 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
 ② 総合薬品科学専攻志願者 千葉大学薬学部学務係 〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記の書類等を提出してください。

| 出願書類等 | 摘 要 |
|---------------------------------|---|
| ①入学願書 | 本大学院所定の用紙。必ず裏面の貼り付け欄に検定料の振込証明用「貼付用（大学提出用）」をのり付けしてください。 |
| ②写真票・受験票 | 本大学院所定の用紙 |
| ③検定料（30,000円） 右記のとおり振込となります。 | <p>●日本国内在住の志願者 出願前に本募集要項の指定用紙（振込依頼書）にて銀行等（ゆうちょ銀行を除く。）で振り込んでください。（自動振込機は使用せず、必ず窓口で振り込んでください。）振込手数料は本人負担となります。 また、「領収書（保管用）、振込証明用（貼付用）」は金融機関から受領した際に必ず取扱金融機関の出納印を確認の上振込証明用「貼付用（大学提出用）」を願書裏面の貼り付け欄にのり付けしてください。 なお、外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要です。</p> <p>●海外在住の志願者 この募集要項に添付された所定用紙の「振込依頼書」は、日本国内の銀行のみ使用可能です。日本国内に知人等がない場合は、クレジットカード決済により、検定料30,000円の払込手続をしてください。なお、検定料の払込手続きは出願前に済ませてください。</p> <p>(1) 千葉大学ホームページ（http://www.chiba-u.jp）の＜受験生の皆様へ＞にアクセスし、＜入試案内＞→＜海外からの検定料支払い＞により検定料払込手続きを行ってください。</p> <p>(2) 検定料の払込手続終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容を確認後、そのメールを担当係へ転送してください。</p> <p>注1. 入学願書の裏面にある「検定料納入方法」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。</p> <p>注2. クレジットによる検定料の払込手続き期間は、平成30年6月18日（月）～7月26日（木）までです。なお、出願書類を提出する前に払込手続きをしてください。</p> <p>注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続の際にホームページで必ず確認してください。</p> <p>※いったん納入した検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って振り込み、出願しなかった者が平成31年3月29日（金）17時までに所定の返還手続を行った場合は、検定料の全額を返還しますので、志望専攻の事務担当者に確認してください。</p> |
| ④卒業（見込）証明書 | 出身大学（学部）長が証明したもの。 |
| ⑤成績証明書 | 出身大学（学部）長が作成したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。 |

| 出願書類等 | 摘 要 |
|--|--|
| ⑥学位授与証明書 | 2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの。 |
| ⑦学位授与を申請する旨の証明書 | 2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したもの。 |
| ⑧写真(2枚) | 上半身、正面、脱帽のもので、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影した写真を写真票及び受験票の該当欄に貼り付けてください。 |
| ⑨受験票送付用封筒 | 長型3号封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手(82円分)を貼り同封してください。 |
| ⑩履歴書(外国人用) | 本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。) |
| ⑪住民票 (外国人志願者のみ) | 市区町村長が交付したもの。(在留期間、在留資格が明記してあるもの。) なお、外国人登録をしていない者は、提出不要。 |
| ⑫パスポートの写し (外国人志願者のみ) | 氏名等が記載されているページの写し。 |
| ⑬TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPのスコアカードの写し (総合薬品科学専攻志願者のみ) | 平成27年4月1日以降に受験した、TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPの成績が記載されたスコアカードの写しを提出してください。もし、出願期間に間に合わなかった場合には、薬学部学務係に確認してください。 なお、受験していない場合は、「TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC公開テスト(L&R), TOEIC-IPを受験しなかった旨」を記載したもの(様式任意)を提出してください。 |
| ⑭入試関係通知書等受取先住所シール | 本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。) |

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者については、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

| 提出書類 | 摘 要 |
|------------------|--|
| 入学試験出願資格認定申請書 | 本大学院所定の用紙 |
| 研究業績調査書 | 本大学院所定の用紙(該当する場合のみ) |
| 成績証明書 | 出身学校(学部)長が作成したもの 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書 |
| 出身学校(学部、学科等)規程 | 卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの |
| 履歴書(外国人用) | 本大学院所定の用紙 |
| 入試関係通知書等受取先住所シール | 本大学院所定の用紙 |

(2) 提出期間

平成30年7月3日(火)から7月5日(木)まで

郵送の場合、最終日17時までに**必着**とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と**朱書き**してください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。(12時から13時までを除く。)

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

(4) 審査及び認定 提出書類により審査し、認定します。

(5) 審査・認定の結果は、平成30年7月20日(金)までに本人宛通知します。

6. 選抜方法及び期日

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。

(1) 医科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

| 期 日 | 学 力 検 査 科 目 | 時 間 |
|----------------|---|-------------|
| 平成30年 8月16日（木） | 専門科目（主たる指導を希望する指導教授の専門科目（研究領域）は別表2「指導教授別研究テーマ」を参照してください。） | 10：30～11：30 |
| | 英 語（医科生命科学英語） | 13：30～15：00 |
| | 面接試験 | 15：30～ |

医科学専攻においては、各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。

| 学力検査科目 | 配点 |
|-------------------|-----|
| 専門科目 | 100 |
| 英 語 （医科生命科学英語） | 300 |
| 面接試験 | 100 |

② 学力検査及び面接場所 千葉大学医学部

(2) 総合薬品科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

| 期 日 | 学 力 検 査 科 目 | 時 間 |
|-------------------|--|-------------------------------|
| 平成30年 8月16日（木） | 基 礎 科 目 （物理化学3題，有機化学3題， 生物化学3題から試験場で3題 選択する。） | 物 理 化 学 有 機 化 学 生 物 化 学 |
| 8月17日（金） | 面 接 | 13：00～ |

総合薬品科学専攻においては、各学力検査科目の配点を下表のとおりとします。

| 学 力 検 査 科 目 | 配 点 |
|--|-----|
| 外国語（英語） （TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC 公開 テスト（L&R）, TOEIC-IPのスコアを100点に換算） | 100 |
| 基礎科目 | 200 |
| 面接試験 | 100 |

② 学力検査及び面接場所 千葉大学薬学部

7. 合格者発表

○医科学専攻

平成30年9月10日（月）13時 発表場所：医学部掲示板

○総合薬品科学専攻

平成30年9月10日（月）13時 発表場所：薬学部掲示板

上記の日時により発表する（掲示期間は3日間）とともに、合格者には合格通知書を交付します。

8. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、医科学専攻は平成30年8月15日（水）10時に医学部掲示板に、総合薬品科学専攻は平成30年8月10日（金）10時に薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による合否の問い合わせには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

9. 入学手続

- (1) 入学手続期間：平成30年9月21日（金）
- (2) 入学手続場所：医科学専攻は千葉大学医学部
総合薬品科学専攻は千葉大学薬学部
- (3) 入学手続の際に納入する経費

入学手続の際には、次の経費が必要です。

| 入 学 料 | 学生保健互助会費 | 学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険含む) | 合 計 |
|-----------|-----------------|----------------------------------|-----------|
| 282,000 円 | 2 年分 4,000 円 | 医科学専攻 2 年分 | 288,750 円 |
| | | 総合薬品科学専攻 2 年分 | 288,430 円 |

- (注) 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。
- 2 授業料の納入については、入学後の後期分授業料は11月に、前期分授業料は4月に口座引落しにより納入願います。口座引落し手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。
- なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ267,900円（年額535,800円）です。
- また、入学して2年目から、後期分授業料は10月が口座引落しの月となります。
- 3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
- 4 入学料及び授業料が免除される制度があります。
- 詳細は、千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧ください。

入学料及び授業料免除に関する問い合わせ先

学務部学生支援課 電話043-290-2178

5 学生保健互助会費（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）及び学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（正課中，学校行事中，課外活動中，通学中における傷害事故に対して補償するものです。また，他人にケガをさせたり，他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には，改定時から新保険料が適用されます。）は，平成30年9月28日（金）までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。

詳細は，学務部学生支援課へ問い合わせてください。

電話043-290-2220（学生保健互助会）

電話043-290-2162（学生教育研究災害傷害保険）

6 外国人合格者で日本政府（文部科学省）国費留学生は入学科，授業料は必要ありません。

7 納入した入学科は，いかなる理由があっても返還しません。

8 入学手続完了者が平成30年9月30日（日）17時までに入学科を辞退した場合には，申し出により既に納入済の学生保健互助会費及び学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(4) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は，学業成績及び研究能力，家庭の経済的事情等審査の上，日本学生支援機構に推薦するものです。

(5) 提出書類，その他入学手続上の詳細は，合格者本人に別途通知します。

【問い合わせ先】

本大学院の内容及び出願方法についての問い合わせは下記にお願いします。

① 医科学専攻志願者

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部大学院学務係

電話 043-226-2009

ホームページ <http://www.m.chiba-u.ac.jp/>

E-mail sah5234@office.chiba-u.jp

② 総合薬品科学専攻志願者

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学薬学部学務係

電話 043-226-2862

ホームページ <http://www.p.chiba-u.jp/>

E-mail yakugaku-in@chiba-u.jp

医学薬学府案内

1. アドミッションポリシー

千葉大学大学院医学薬学府は、医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と創造的医学薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻

先端医学薬学専攻が求める入学者

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端の医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

(2) 先進予防医学共同専攻

先進予防医学共同専攻が求める入学者

先進予防医学共同専攻は、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤とし、新たな方法論として、オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防まで包括した個別化予防を実践できる人材の育成を目指しています。先進的な予防医学研究に熱意を持って取り組む意欲あふれる学生の入学を求めています。

【3年博士課程】

先端創薬科学専攻

先端創薬科学専攻が求める入学者

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献する先端的研究者を目指す人を求めています。

【修士課程】

(1) 医科学専攻

① 医科学専攻が求める入学者

医科学専攻は、新たな学問体系を網羅する多様な知識を備え、科学の社会的役割ないし責任を正しく理解できる豊かな人間性を持ち、かつ21世紀の国民のニーズに応え得る医学・医療系の人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、一般的基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った学生の入学を求めています。

(2) 総合薬品科学専攻

① 総合薬品科学専攻が求める入学者

総合薬品科学専攻は、総合科学である薬学の高度な知識を身に付けるとともに、疾病の診断・治療・予防に用いられる医薬品の社会的諸側面を正しく理解できる人材の育成、さらにグローバルに展開する基礎から応用に至る医薬品開発研究を自立的に担う人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った意欲ある学生の入学を求めています。

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻・コースから構成されています。

修士課程

| 専攻 | コース名 | 取得できる学位 |
|----------|-----------------------------|---------|
| 医科学専攻 | 基礎医科学コース, 展開医科学コース, 社会医学コース | 修士(医科学) |
| 総合薬品科学専攻 | | 修士(薬科学) |

4年博士課程

| 専攻 | コース名 | 取得できる学位 |
|------------|---|----------------|
| 先端医学薬学専攻 | 先端生命科学(初期受け入れコース), 免疫統御治療学, 先端臨床医学薬学, がん先端治療学 | 博士(医学)又は博士(薬学) |
| 先進予防医学共同専攻 | | 博士(医学) |

後期3年博士課程

| 専攻 | コース名 | 取得できる学位 |
|----------|------|---------|
| 先端創薬科学専攻 | | 博士(薬科学) |

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士(医学)又は博士(薬学)のいずれかが取得できます。

修士課程において開設する授業科目については、別表1「授業科目並びに担当教員」を参照してください。

また、学位論文の指導については、別表2「指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 課程の修了要件及び履修方法

修士課程

① 修了要件

34単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

1) 修士(医科学)の学位の授与を受ける場合は、特論は13単位以上を修得する。修士(薬科学)の学位の授与を受ける場合は、特論、概論14単位以上を修得する。

2) 修士(医科学)及び修士(薬科学)の学位の授与を受ける場合は、特別実験16単位及び演習4単位を修得する。

4. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置の導入について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修し易い環境を整備した上で、すでに教育研究の現場において活躍している人材やすでに社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況が異なりますので、この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会の上、出願してください。

授業科目並びに担当教員

医科学専攻

備考 ※の担当教員は平成31年4月1日以降変更予定

| 分野名 (コース) | 授業科目 (特論) | 担 当 教 員 |
|-----------|---------------|--|
| 基礎医科学コース | 先端生命科学 | ○教授 金田 篤志 教授 三木 隆司 教授 山口 淳 客員教授 古関 明彦 教授 齋藤 哲一郎 教授 瀧口 正樹 教授 眞鍋 一郎 准教授 粕谷 善俊 |
| | 生体防御医学 | ○教授 中島 裕史 教授 白澤 浩 教授 中山 俊憲 教授 亀井 克彦 客員教授 藤井 眞一郎 教授 本橋 新一郎 教授 幡野 雅彦 教授 江藤 浩之 教授 米山 光俊 客員教授 大野 博司 |
| 展開医科学コース | 薬物療法情報学 | ○教授 安西 尚彦 教授 中島 裕史 教授 巽 浩一郎 准教授 松本 明郎 准教授 並木 隆雄 教授 伊豫 雅臣 教授 滝口 裕一 教授 石井 伊都子 准教授 有吉 範高 講師 長谷川 洋 |
| | 臨床医学 | ○教授 池原 讓 教授 市川 智彦 教授 桑原 聡 客員教授 鎌田 正 客員教授 山村 隆 准教授 三橋 暁 准教授 朝比奈真由美 講師 大平 学 助教 山本 達也 教授 巽 浩一郎 教授 生水 真紀夫 客員教授 山田 滋 客員教授 村田 美穂 客員教授 永瀬 浩喜 准教授 岸本 充 講師 上里 昌也 助教 富居 一範 |
| | 先端治療学 | ○教授 横手 幸太郎 教授 丹沢 秀樹 教授 五十嵐 辰男 教授 田中 知明 准教授 石和田 稔彦 助教 武内 正博 教授 小林 欣夫 教授 高野 博之 教授 下条 直樹 客員教授 田川 雅敏 講師 藤井 克則 |
| 社会医学コース | 公衆衛生学 | ○※教授 羽田 明 教授 戸高 恵美子 教授 諏訪園 靖 助教 藤田 美鈴 教授 森 千里 教授 近藤 善広 准教授 尾内 善広 |
| | 遺伝情報応用学 | ※教授 羽田 明 教授 岩瀬 博太郎 准教授 尾内 善広 講師 西村 基 教授 関根 章博 准教授 松下 一之 准教授 鈴木 隆弘 助教 別府 美奈子 |
| | 臨床精神心理学 | ○教授 伊豫 雅臣 教授 橋本 謙二 特任教授 渡邊 博幸 特任助教 東本 愛香 教授 清水 栄司 教授 五十嵐 禎人 客員教授 稲垣 真澄 |
| | 環境健康科学 | ○教授 森 千里 教授 戸高 恵美子 教授 諏訪園 靖 准教授 中岡 宏子 ※教授 羽田 明 教授 近藤 善広 准教授 花里 真道 |
| | 肉眼解剖学 | ○教授 森 千里 講師 鈴木 崇根 |
| | サステイナブル環境健康科学 | ○教授 森 千里 教授 戸高 恵美子 教授 諏訪園 靖 准教授 中岡 宏子 ※教授 羽田 明 教授 近藤 善広 准教授 花里 真道 |

○は、科目責任者

総合薬品科学専攻

備考 ※の担当教員は平成31年4月1日以降変更予定

| 授業科目(特論) | 担当教員 | | |
|---------------|-------------------------|----------------------|----------------------|
| 薬化学 | 教授 根本 哲宏 | 助教 原田 慎吾 | 助教 中島 誠也 |
| 薬品合成化学 | 教授 西田 篤司 | 准教授 荒井 秀 | 助教 原田 真至 |
| 生体機能性分子学 | 教授 高山 廣光 | 准教授 北島 満里子 | 助教 小暮 紀行 |
| 活性構造化学 | 教授 石橋 正己 | 准教授 荒井 緑 | |
| 製剤工学 | 教授 森部 久仁一 | 准教授 東 顕二郎 | 助教 植田 圭祐 |
| 薬品物理化学 | 准教授 星野 忠次 | 助教 米田 友貴 | |
| 遺伝子資源応用学 | 教授 齊藤 和季 特任助教 佐藤 玄 | 准教授 山崎 真巳 | 講師 吉本 尚子 |
| 遺伝子創薬学 | 客員教授 中山 学 | 客員教授 鈴木 秀幸 | 客員准教授 大関 淳一郎 |
| 分子細胞生物学 | 教授 山口 直人 | 講師 福本 泰典 | |
| 生化学 | 教授 伊藤 素行 | 講師 殿城 亜矢子 | 助教 溝口 貴正 |
| 免疫微生物学 | 教授 川島 博人 | 准教授 高屋 明子 | 助教 平川 城太郎 |
| 病態分析化学 | 教授 戸井田 敏彦 | 准教授 西村 和洋 | 特任助教 岡本 悠佑 |
| 分子画像薬品学 | ※教授 荒野 泰 | 准教授 上原 知也 | 助教 鈴木 博元 |
| 予防薬学 | 教授 小椋 康光 | 准教授 鈴木 紀行 | |
| 環境毒性学 | 客員教授 中島 大介 | 客員教授 青木 康展 | 客員准教授 小林 弥生 |
| 薬効薬理学 | 教授 村山 俊彦 | 准教授 中村 浩之 | 特任助教 本田 拓也 |
| 薬物学 | 教授 秋田 英万 特任助教 櫻井 遊 | 准教授 小林 カオル | 特任助教 田中 浩揮 |
| 生物薬剤学/臨床薬理学 | 教授 伊藤 晃成 講師 佐藤 洋美 | 教授 樋坂 章博 助教 青木 重樹 | 講師 関根 秀一 助教 畠山 浩人 |
| 社会薬学・実務薬学 | 教授 佐藤 信範 助教 櫻田 大也 | 教授 関根 祐子 助教 石川 雅之 | 准教授 小林 江梨子 |
| 医療薬学・分子心血管薬理学 | 教授 石井 伊都子 助教 内田 雅士 | 教授 高野 博之 | 准教授 山口 憲孝 |
| 医薬品開発学 | 教授 佐藤 信範 | 准教授 小林 江梨子 | 助教 櫻田 大也 |
| 創薬生命科学基礎概論 | 教授 西田 篤司 | 教授 川島 博人 | 他 |
| 国際創薬科学 | 教授 戸井田 敏彦 特任助教 田中 佑樹 | 特任助教 Amit Rai | 特任助教 山形 一行 |
| 生命情報科学 | 教授 白澤 浩 | | |

指導教授別研究テーマ

医科学専攻

備考 ※の担当教員は平成31年4月1日以降変更予定

| 分野名(コース) | 指導教授 研究科目(研究領域) | 研究テーマ |
|----------|--------------------|--|
| 基礎医科学コース | 金田 篤志 分子腫瘍学 | ①発癌のエピジェネティクス ②エピゲノム異常の分子機構 ③細胞分化・老化におけるエピゲノムとその制御機構の研究 ④ストレス応答機構の解析 ⑤環境毒性物質の生物作用 |
| | 斎藤 哲一郎 発生再生医学 | ①神経系発生の分子機構の解析 ②神経幹細胞の分化能の解析と制御 ③神経細胞の個性獲得機構の解析 ④神経回路網の構築と高次神経機能への役割の解析 |
| | 山口 淳 機能形態学 | ①脳梗塞急性期の神経細胞ストレス応答機構の解明 ②脳梗塞慢性期の神経再生療法の開発 ③筋萎縮側索硬化症(ALS)の発症機序の解明 |
| | 三木 隆司 代謝生理学 | ①糖・エネルギー代謝の制御機構 ②分泌現象の分子メカニズム ③遺伝子改変動物を用いたインスリン分泌と作用の病態解析 ④電気的興奮細胞の活動調節 ⑤神経・内分泌細胞の細胞内シグナル間クロストーク |
| | 瀧口 正樹 遺伝子生化学 | ①行動, 代謝, 神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構 ②動脈硬化, 脳梗塞, 癌, 自己免疫疾患等の抗体マーカーの探索とその抗原タンパク質の機能解析 ③血管新生を制御する化合物の探索と開発 |
| | (未定) 分子生体制御学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①オーファン受容体の新規リガンドの探索とその生理作用の解析 ②血管作動性ペプチドの生化学・分子生物学 ③RGSによる循環器系GPCRシグナルの制御機構の解析 ④遺伝子改変マウスを用いたp38MAPキナーゼの病態生理的機能の解析 ⑤炎症性肺疾患における創薬ターゲットの探索 ⑥神経幹細胞の疾患適用への分子基盤情報構築 |
| | (未定) 生殖生物医学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①精子核周囲物質を指標としたほ乳動物の卵活性化能の評価法の開発 ②受精関連分子のイメージング化による受精機構の解析 ③遺伝子改変動物を用いた不妊症発症の研究 ④精子中心体関連物質の受精および胚発生における機能解析 ⑤精子鞭毛外側粗大線維と軸糸の相互作用の研究 |

| | | |
|----------|------------------------------|--|
| 基礎医科学コース | (未定) 細胞分子医学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①正常およびがん幹細胞システムの成り立ちとその分子基盤の解明 ②造血幹細胞の自己複製機構の解明 ③幹細胞研究の再生医療・がん治療へのトランスレーション ④エピゲノムによる転写制御とエピジェネティクス |
| | (未定) 病原機能学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①病原真菌の分子細胞シグナリング解析 ②真菌の環境ストレス応答・細胞周期制御・薬剤耐性の分子機構解析 ③分子細胞医真菌学, 病原真菌学 ④真菌シグナル伝達系の生化学・分子生物学・分子機能制御学 |
| | 担当教員: 高橋弘喜(准教授) 微生物資源学 | ①アスペルギルス症など真菌感染症における病原性発現機構・感染機構の解析 ②真菌, 放線菌のゲノム解析, 系統解析, 分子疫学的解析 ③病原真菌・放線菌と宿主の相互作用(受容体等)の研究 ④病原真菌・放線菌の分子生物学的・化学的および形態学的手法を用いた統合系統解析および分子疫学 ⑤分子生物学的手法を用いた病原真菌・放線菌の機能遺伝子・2次代謝産物に関する研究 |
| | 古関明彦 免疫制御学 | ①哺乳類細胞の分化過程におけるエピジェネティック制御の役割の解明 ②ゲノム解析技術とイメージングを用いたエピジェネティック制御の分子メカニズムの解明 ③ヒト・リンパ球からのiPS細胞誘導と再分化技術の樹立 ④ヒト造血幹細胞自己複製と分化におけるエピジェネティック制御の役割 ⑤ヒト化マウスを用いたヒト免疫系の生体内動態のシミュレーション |
| | 眞鍋一郎 長寿医学 | ①生活習慣病における慢性炎症の分子機構 ②組織マクロファージのエピジェネティック制御機構 ③長鎖非コードRNA (lncRNA) ④臓器間連携による恒常性維持機構と病態 ⑤心血管疾患・リンパ浮腫への新規治療法開発 |
| | 中島裕史 アレルギー臨床免疫学 | ①アレルギー性炎症の制御機構の解明 ②サイトカインシグナル伝達機構の解明 ③気管支喘息の病態解明 ④アレルギー性疾患の新規治療法の開発 ⑤膠原病における臓器障害機構の解明 ⑥Tリンパ球の分化・活性化機構の解明とその抑制による疾病制御 ⑦自己免疫疾患の治療反応性予測 ⑧自己免疫疾患の新規治療法の開発 |

| | | |
|----------|---|--|
| 基礎医科学コース | 担当教員： 清水 健 (准教授) 八尋 錦之介 (准教授) 病原細菌制御学 | ①病原分子の細胞内輸送システムと活性化のメカニズムに関する研究 ②病原分子の脳細胞アポトーシスの誘導メカニズムに関する研究 ③ADP-リボシル化病原分子による情報伝達系攪乱のメカニズムに関する研究 ④病原分子による組織障害のメカニズムに関する研究 ⑤病原分子の活性制御法の開発と臨床応用に関する研究 ⑥病原分子の簡便なスクリーニング法の開発と臨床応用に関する研究 |
| | 白澤 浩 分子ウイルス学 | ①ウイルスの分子疫学 ②ウイルス遺伝子の転写調節機構 ③腫瘍ウイルスと宿主遺伝子の相互作用 ④発がん関連宿主遺伝子 ⑤ウイルスベクター |
| | (未定) 感染生体防御学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①寄生体の体内移行経路・臓器特異性・接着機序の解析 ②感染症に対する生体防御の分子機構 ③新興・再興感染症と熱帯医学 ④寄生体のミトコンドリアに関する研究 ⑤病原体の薬剤耐性獲得機構 |
| | (未定) 粘膜免疫学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①腸管の感染、炎症状態における自然免疫の役割 ②腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の解析 ③粘膜免疫防御を付加出来る新規ワクチン、アジュバント開発 ④腸管免疫におけるシステムバイオロジー解析 ⑤ゲノム編集技術を用いたマウス作成と新規免疫療法の開発 |
| | 中山 俊憲 免疫発生学 | ①免疫システムの形成と維持の生物学 ②Th1/Th2/Th17細胞分化とメモリー細胞での機能の維持機構 ③慢性炎症のニッシュの研究 ④アレルギー疾患発症のメカニズムの解明と制御法の開発 ⑤がん免疫と治療研究 |
| | 本橋 新一郎 免疫細胞医学 | ①NKT細胞の抗腫瘍効果に関する分子メカニズム解析 ②がん免疫細胞治療の臨床研究 ③がん免疫細胞治療に関するバイオマーカー探索 ④治療用免疫細胞の細胞規格研究 |
| | 幡野 雅彦 疾患生命医学 | ①発生工学技術を用いた疾患モデルマウスの作製と解析 ②腸管神経分化の分子機構とその異常による疾患病態解析 ③腸管神経系と免疫系の相互作用解析 ④肺胞形成の分子機構と再生医療への応用 ⑤p38MAPキナーゼの病態生理的機能の解析 ⑥炎症性肺疾患の成立機構の解明と細胞治療の開発 ⑦成体海馬由来神経幹細胞のin vitro増幅法の開発と治療応用 |
| | 江藤 浩之 イノベーション再生医学 | ①エピゲノム情報を基にした新規ヒト造血幹細胞増幅系の確立 ②エピゲノム情報を基にした血液腫瘍への創薬開発 ③ヒト血液系細胞を再生する人口骨髄の開発 ④疾患iPS細胞を用いた創薬開発 |

| | | |
|----------|----------------|---|
| 基礎医科学コース | 亀井克彦 臨床感染症学 | <ul style="list-style-type: none"> ①アスペルギルス症を中心とした真菌症における病原因子と感染機構の研究 ②真菌症の診断・治療法の研究 ③真菌症の疫学及び抗真菌薬耐性機序の研究 ④環境内の真菌の制御に関する研究（院内感染を含む） ⑤真菌に起因するアレルギー性肺疾患の研究 ⑥輸入真菌症の疫学及び診断・治療法の研究 |
| | 米山光俊 感染免疫学 | <ul style="list-style-type: none"> ①感染に応答した生体防御誘導の分子メカニズムの解明 ②ウイルスセンサー分子による非自己核酸認識の分子機構 ③ウイルスセンサーを介した細胞内シグナルとその生理機能 ④遺伝子改変マウスを用いた真菌センサー分子の生理機能の解明 ⑤遺伝子改変マウスを用いた炎症性疾患発症機構の解析 ⑥Th17細胞と3型自然リンパ球の分化・機能解析 ⑦腸内細菌・真菌叢による宿主病態制御 ⑧免疫細胞による腸管上皮細胞の糖鎖修飾誘導・制御機構 ⑨微生物による感染と共生機構の解明 |
| | 藤井眞一郎 免疫制御学 | <ul style="list-style-type: none"> ①自然免疫と獲得免疫の連結機構と細胞生存に関する研究 ②樹状細胞を中心とする抗原提示細胞の分化、免疫シグナルに関する研究 ③腫瘍免疫1（がん免疫抑制機構解明に関する研究） ④腫瘍免疫2（がん免疫賦活機構解明に関する研究） ⑤がんに対する免疫療法の新規開発 ⑥がんに対する複合的免疫療法検討に関する研究 ⑦感染症に対する免疫療法の開発 |
| | 大野博司 免疫制御学 | <ul style="list-style-type: none"> ①腸管免疫における上皮細胞の役割の解明 ②腸内細菌叢の生理的意義の解明 ③細胞内小胞輸送機構の解明 ④樹状細胞の免疫応答調節機構の解明と細胞療法への応用 ⑤担癌宿主における腫瘍免疫機構の解明 |
| 展開医科学コース | 安西尚彦 薬理学 | <ul style="list-style-type: none"> ①新規トランスポーターの分子同定・機能解析によるトランスポーター分子標的治療薬の開発 ②トランスポーター機能制御の分子機構解明と「トランスポートソーム」修飾治療法の開発 ③腫瘍特異的アミノ酸トランスポーターを分子標的とする新規抗がん薬開発 ④腎尿細管尿酸トランスポーターを分子標的とする新規高尿酸血症治療薬開発 |
| | 石井伊都子 薬物治療学 | <ul style="list-style-type: none"> ①高脂血症における薬物動態に関する研究 ②血管の異常に関する薬物代謝の変化 ③薬物の投与設計に関する研究 ④薬物治療の個別最適化のためのPG_x研究 ⑤薬物相互作用に関する研究 |

| | | |
|----------|------------------------------|--|
| 展開医科学コース | 池原 讓 腫瘍病理学 | <ul style="list-style-type: none"> ①近赤外波長域(1,000-1,800nm)イメージング技術の開発と、これを利用した画像診断学の創成 ②がんの浸潤転移に関わる分子の発現・機能制御メカニズムの解析と、これを標的とする診断治療薬の探索研究 ③初期発生に関わる分子群の細胞分化・増殖・発がんにおける機能の分子生物学的解析 ④遺伝子改変技術を用いた膵管がんを発症するマウスの作成と、これを用いた発がんメカニズムの解明 ⑤モデルマウスを利用した検査診断ならびに、治療アプローチの開発研究 ⑥解剖病理・外科病理 |
| | (未定) 診断病理学 | <p>[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①悪性腫瘍の病理組織学的及び分子生物学的解析 ②肺・胸膜疾患の病理組織学的及び分子生物学的解析 ③縦隔腫瘍の病理組織学的及び分子生物学的解析 ④外科病理診断学的研究 ⑤細胞診断学的研究 |
| | 担当教員： 岸本 充 (准教授) 病態病理学 | <ul style="list-style-type: none"> ①悪性腫瘍の生物学・分子生物学 ②腫瘍の分化転換機構の解明 ③転写因子による腫瘍の制御 ④免疫関連ヒト疾患 ⑤表現形転換に注目した基礎的生物学 |
| | 巽 浩一郎 呼吸器内科学 | <ul style="list-style-type: none"> ①肺高血圧症の病態解析と治療戦略に関する研究 ②肺血栓塞栓症の病態解析と治療戦略に関する研究 ③慢性閉塞性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 ④間質性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 ⑤睡眠時無呼吸症候群の病態解析と治療戦略に関する研究 ⑥胸部悪性腫瘍(特に肺癌, 胸膜中皮腫)の病態解析と治療戦略に関する研究 ⑦呼吸器感染症(真菌感染症, 抗酸菌感染症を含む)の病態解析と治療戦略に関する研究 ⑧呼吸器の再生医学に関する研究 ⑨薬剤性肺障害を含む呼吸器疾患におけるバイオマーカー研究 ⑩アレルギー性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 ⑪呼吸器疾患の和漢治療に関する研究 |
| | 市川 智彦 泌尿器科学 | <ul style="list-style-type: none"> ①シスチン尿症の責任遺伝子に関する遺伝学的研究 ②腎癌, 尿路上皮癌の遺伝子診断の研究 ③進行性腎癌における腫瘍免疫の研究 ④尿路悪性腫瘍における免疫組織学的研究 ⑤前立腺癌における免疫組織学的研究 ⑥前立腺癌における癌抑制遺伝子・転移抑制遺伝子の研究 ⑦前立腺癌のアンドロゲン依存性喪失機構の研究 ⑧遺伝カウンセリングに関する研究 <p>※遺伝カウンセラーコースに出願を希望する者は、泌尿器科学研究領域に出願してください。</p> |

| | | |
|----------|--------------------------------|---|
| 展開医科学コース | 生 水 真紀夫 生殖医学 | <ul style="list-style-type: none"> ①絨毛細胞の機能分化・絨毛癌におけるエピジェネティック制御機構 ②非侵襲的出生前遺伝子診断法の開発 ③子宮頸癌・卵巣癌の早期診断マーカーと新規治療法の開発 ④子宮体癌の内分泌治療法・妊孕性温存療法 ⑤侵入奇胎の発症機序解明 ⑥子宮筋腫・内膜症の原因に関する分子生物学的研究 ⑦エストロゲン合成酵素の研究（活性調節・系統進化） ⑧脳症小児麻痺の発生子防法の開発 ⑨妊娠高血圧症の病態解明 ⑩不妊症の病態解明と生殖補助医療の新規治療方法に関する研究 |
| | 担当教員： 朝比奈 真由美（准教授） 医学教育学 | <ul style="list-style-type: none"> ①医療専門職の卒前教育におけるプログラム開発と実践 ②医療専門職の卒後研修におけるプログラム開発と実践 ③医療専門職の生涯教育におけるプログラム開発と実践 ④市民を対象とした健康生涯教育のプログラム開発と実践 ⑤社会ニーズにマッチした教育手法と評価法の調査，研究 ⑥医療者に対する教育能力開発と実践 |
| | 桑 原 聡 神経内科学 | <ul style="list-style-type: none"> ①臨床神経生理学：ヒト軸索イオンチャネルの in vivo 解析 ②神経免疫疾患の病態解析と新規治療開発に関する研究 ③神経変性疾患の分子病態解析 ④軸索伸展促進を介する新規神経再生療法の開発 ⑤プロテオミクスによる神経疾患バイオマーカーの探索と病態解析 ⑥臨床自律神経学 ⑦神経原性慢性疼痛の病態と治療 |
| | 永 瀬 浩 喜 分子腫瘍生物学 | <ul style="list-style-type: none"> ①配列特異的DNA認識化合物による疾患治療薬開発研究（抗がん剤・抗生剤開発） ②薬剤による遺伝子発現スイッチ，細胞表現型の変更・多能性幹細胞の誘導研究 ③エピジェネティクスを加味した遺伝機構図（ジェネティック・アーキテクチャー）の解明 ④ヒト検体を用いたがんバイオマーカーの探索研究 ⑤分子疫学研究，がん追跡調査（コホート研究）・がん登録の応用研究 ⑥発がん・がん感受性機構に関する研究 ⑦DNA損傷，薬剤耐性に関する研究 |
| | 山 村 隆 神経内科学 | <ul style="list-style-type: none"> ①多発性硬化症の病態解析 ②多発性硬化症の新規治療薬開発 ③多発性硬化症の病態マーカーの開発 ④免疫性神経疾患の誘導に関わる環境因子の解析 ⑤神経系と免疫系のクロストーク ⑥視神経脊髄炎（NMO）の病態解析と治療 |

| | | |
|----------|------------------|---|
| 展開医科学コース | 村田美穂 神経内科学 | <ul style="list-style-type: none"> ①新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの神経保護作用に関する研究 ②パーキンソン症候群における薬物動態解析とその臨床応用に関する研究 ③脊髄小脳変性症等神経変性疾患の病態解明と治療法開発に関する研究 ④臨床神経学 |
| | 鎌田正 重粒子線治療学 | <ul style="list-style-type: none"> ①炭素線の作用機序に関する研究 ②炭素線治療技術向上に関する研究 ③炭素線効果の定量的評価と向上に関する研究 ④炭素線感受性予測システムに関する研究 ⑤がんの遺伝子変異と炭素線治療効果に関する研究 ⑥免疫・炭素線併用療法の開発研究 ⑦画像診断による炭素線治療効果評価に関する研究 ⑧炭素線による正常組織障害の治療・防護に関する研究 |
| | 横手幸太郎 細胞治療内科学 | <p>1. 内分泌代謝病学</p> <ul style="list-style-type: none"> ①内分泌・代謝性疾患における転写因子制御と疾患エピジェネティクス ②骨芽細胞・破骨細胞機能制御と骨代謝性疾患 ③ホルモン受容体と核内シグナルによる生体調節機構と破綻の分子メカニズム ④糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症 ⑤動脈硬化症発症機構の解明と新規治療法の開発 ⑥生活習慣病に伴う慢性腎臓病の成因と治療 ⑦前脂肪細胞を用いた遺伝子治療 ⑧血糖クランプ法を用いたインスリン作用および抵抗性の機序の解明 <p>2. 血液病学</p> <ul style="list-style-type: none"> ①急性白血病発症の分子機構 ②骨髄増殖性疾患における骨髄線維化の分子機構の解明 ③多発性骨髄腫の薬剤耐性機序の解明 ④同種造血幹細胞移植療法の確立 ⑤Crow-Fukase症候群の発症機構の解明と治療法の確立 ⑥造血器悪性腫瘍における新たな血清腫瘍マーカーの確立 <p>3. 老化・老年病学</p> <ul style="list-style-type: none"> ①早老症のメカニズム解明と治療介入 ②酸化ストレスを標的とした脳, 骨, 骨格筋の老化予防 ③新しい高齢者医療の開発 |
| | 下条直樹 小児病態学 | <ul style="list-style-type: none"> ①小児内分泌疾患の病態・診断・治療に関する研究 ②白血病・悪性新生物の病態・診断・治療に関する研究 ③小児循環器疾患の病態・診断・治療に関する研究 ④小児膠原病及び先天性免疫不全症の病態・診断・治療に関する研究 ⑤小児免疫アレルギー疾患の病態・診断・治療に関する研究 ⑥小児神経疾患の病態・診断・治療に関する研究 ⑦小児感染症の病態・診断・治療に関する研究 ⑧新生児疾患の病態・診断・治療に関する研究 |

| | | |
|----------|------------------|--|
| 展開医科学コース | 小林 欣夫 循環器内科学 | ①心臓血管疾患の再生治療 ②心不全・高血圧の病態機序の解明および新規治療法の開発 ③血管の新生と老化 ④循環器疾患の画像診断 ⑤虚血性疾患、不整脈に対するインターベンション |
| | 丹沢 秀樹 臨床分子生物学 | ①歯骨増生・吸収の研究 ②組織再生に関する研究 ③口腔耐性菌の研究 ④口腔癌術後の再建に関する研究 ⑤顎発育形成異常の研究 ⑥口腔癌の遺伝子的研究 ⑦口腔癌の治療法の研究 |
| | 田川 雅敏 分子腫瘍生物学 | ①腫瘍に対する遺伝子治療の基盤研究 ②ウイルスベクターの開発とその応用 ③免疫応答に基づく腫瘍およびその他の疾患に対する治療法の開発 ④遺伝子医薬等による悪性中皮腫に対する臨床試験研究 |
| 社会医学コース | ※羽田 明 公衆衛生学 | ①遺伝カウンセリングに関する研究 ②縦断的な特定健康診査データ等を利用した疾患発症要因の研究 ③医療費適正化にむけたレセプトデータ、特定健診診査データ等の突合分析 ④川崎病の発症および重症化に関与する遺伝要因の同定とその臨床応用に関する研究 ⑤先天異常における遺伝的要因の探索 ⑥多因子疾患の遺伝疫学的研究 |
| | 近藤 克則 公衆衛生学 | ①健康の社会的決定要因に関する研究 ②介護予防から終末期ケアに渡る老年学的研究 ③リハビリテーション医学・医療の研究 ④介護・医療関連情報の「見える化」の研究 ⑤医療介護政策・サービス研究 |
| | 森 千里 環境生命医学 | ①環境中の化学物質の生殖系への影響 ②精子形成機構の解析 ③化学物質の胎児移行とそのメカニズム ④体内蓄積化学物質の削減方法の開発 ⑤化学物質曝露指標のバイオマーカー検索 ⑥未来世代のための環境健康科学（サステイナブル環境健康科学） ⑦リスクアセスメント及びリスクマネジメント ⑧環境教育 ⑨ホルムアルデヒド曝露に関する研究 ⑩化学物質削減住宅ケミレスタウンを用いた環境改善型予防医学の研究 ⑪環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の追加調査研究 |
| | 諏訪園 靖 環境労働衛生学 | ①職域における健康管理に関する研究 ②環境と人間との相互作用に関する研究 ③有害物質の生態影響に関する研究 ④微量元素の人体影響に関する研究 ⑤職場におけるメンタルヘルスに関する研究 |

| | | |
|---------|-------------------------------|---|
| 社会医学コース | 田中 知明 分子病態解析学 | <ul style="list-style-type: none"> ①疾患プロテオミクス ②遺伝子診断と遺伝医療システムの構築 ③肝疾患の新しいバイオマーカーの開発と実用化 ④アルコール医学生物学 ⑤検査の診断効率に関する医療経済学的検討 ⑥スプライシング異常の病態解析 —診断・治療への応用— ⑦非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の病態解析 ⑧神経筋疾患の病態機序に関する遺伝学的検討 ⑨質量分析技術の臨床検査への応用 |
| | 岩瀬 博太郎 法医学 | <ul style="list-style-type: none"> ①画像診断の法医学への応用 ②外傷の法医病理学的研究 ③血液、組織の各種遺伝標識の法医学的応用 ④活性酸素と細胞死の関わりに関する研究 ⑤身元推定における人体寄生生物のDNA型の応用 |
| | 担当教員： 鈴木 隆 弘（准教授） 医療情報学 | <ul style="list-style-type: none"> ①電子カルテシステムの構築 ②医療情報の共有による地域連携 ③インターネット診療システムの開発 ④巨大医療データベースの構築 ⑤電子カルテへのテキストマイニングの応用 ⑥診療支援システムの開発 ⑦医療情報の医療経営への応用 |
| | 伊 豫 雅 臣 精神医学 | <ul style="list-style-type: none"> ①臨床精神薬理学 ②精神疾患の病態解明とバイオマーカー開発 ③精神疾患の治療法開発 ④認知行動学 ⑤司法精神保健 |
| | 清水 栄 司 認知行動生理学 | <ul style="list-style-type: none"> ①動物の行動モデルを用いた、記憶・学習のような知性、不安・恐怖のような情動、意欲や動機づけなどの知・情・意に関する分子メカニズムの研究 ②ヒトの認知行動モデルに基づいた、うつ病・不安障害に関する認知行動療法の研究 ③ヒトの認知行動モデルを解明するための、脳機能画像および事象関連電位による高次機能研究 ④恐怖消去機構の解明および「恐怖を忘れやすくさせる」治療薬の開発 ⑤喉頭の発声・呼吸運動を生成する神経ネットワーク機構の研究 ⑥医療・職域・教育現場における認知行動療法を用いた、全人的サポートに関する研究 ⑦IT（情報テクノロジー）を利用した、心の予防医学のための疫学研究 |

| | | |
|---------|------------------|--|
| 社会医学コース | 橋本謙二 神経科学 | ①精神神経疾患のバイオマーカー ②精神神経疾患の病態解明と新規治療法開発 ③即効性抗うつ薬R-ケタミンの作用機序解明 ④麻薬・覚せい剤精神病の病態解明と新規治療薬開発 ⑤精神神経疾患のモデル動物開発 ⑥脳機能におけるD型アミノ酸の役割 |
| | (未定) 司法心理学 | [未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) ①非行少年・犯罪者のアセスメント ②非行少年・犯罪者の処遇論 ③非行少年への心理援助的関与 ④非行と虐待の関連 |
| | 五十嵐禎人 司法精神保健学 | ①医療観察法の運用 ②触法精神障害者の処遇システムの国際比較 ③精神障害者の人権擁護 ④刑事責任能力の判定 ⑤成年後見制度における能力判定 ⑥犯罪者の心理学的アセスメント ⑦刑務所収容者の精神保護 |
| | 渡邊博幸 応用精神医療学 | ①精神神経疾患・薬物療法手順の開発 ②精神神経疾患における再発予防法の開発 ③精神神経疾患患者への多職種サービスモデルの開発 |
| | 稲垣真澄 精神神経科学 | ①広汎性発達障害の病態解明に関する臨床研究 ②学習障害に関する神経科学的研究 ③AD/HDの病態と治療法開発に関する研究 ④発達障害児の保護者のメンタルヘルスに関する研究 ⑤小児副腎白質ジストロフィー症 (ALD) に関する生理学的研究 ⑥発達障害児の行動異常モデルにおける基盤研究 |

備考 ※の担当教員は平成31年4月1日以降変更予定

| 指導教授 研究室名 | 研 究 テ ー マ |
|--|---|
| 根本 哲 宏 薬化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. エピゲノム異常制御の為の機能性分子合成 |
| 西田 篤 司 薬品合成化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 遷移金属, 希土類金属を利用する新反応の開発と不斉合成への応用 2. 脂質代謝関連物質の合成と脳機能解明および新規抗マalaria剤開発への応用 3. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製 4. 新規複素環ライブラリーの開発を目的とする固相及び液相コンビナトリアル合成法の開発 |
| 高山 廣 光 生体機能性分子 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種 (創薬シード分子) の追求 (主に含窒素天然物の単離, 精密構造解析, 構造変換) 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究 (不斉全合成, 化学変換, 構造修飾, 効率的供給法の開発) 3. 創薬先導化合物の創製 (天然物・合成化合物ライブラリーを活用したメデイシナルケミストリー研究, 作用発現の分子機構の解明) |
| 石橋 正 己 活性構造化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物活性天然物の探索と構造研究 2. 創薬・生命科学の進展に寄与する低分子化合物の分子設計・探索・創製, シグナル伝達分子を標的としたスクリーニング 3. 新規活性天然物の全合成・多様性志向型合成・ケミカルライブラリー合成, 生物活性低分子の活性機構解明・天然物基盤ケミカルバイオロジー |
| 森 部 久仁一 製剤工学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 固体医薬品の性質に関する研究 2. 固体分散系中での医薬品分子状態の研究 3. 有機化合物のメカノケミストリー 4. サブミクロン粒子の調製と性質の検討 5. DDS キャリヤーとしてのリポソームの研究 |
| (未 定) 担当教員 星野 忠次 (准教授) 薬品物理化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造情報に基づいた抗ウイルス薬の論理設計および化合物合成と活性評価 2. 計算機スクリーニングによる医薬先導化合物の探索と抗がん薬の開発 3. 結合構造および相互作用の解析を基盤とした機能性タンパク質の分子設計 4. 光線力学療法治療剤への応用を志向した新規ボルフィリノイドの創製 5. 生体由来の複素芳香環を活用して新規物性発現を行う物理有機化学 |
| 齊藤 和 季 遺伝子資源応用 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬用植物における有用物質生産の機構と制御の分子生物学的理解 2. ポストゲノム科学の新薬用資源開発への応用 3. 高等植物の環境応答と関連した物質代謝の分子機構 4. メタボロミクスを基盤としたシステム生物学 5. 生薬と漢方の情報学的解析 |
| 山口 直 人 分子細胞生物学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がん細胞増殖におけるチロシンリン酸化シグナル伝達の研究 2. 核内チロシンリン酸化シグナルによるクロマチンダイナミクスの研究 3. DNA 傷害におけるチロシンリン酸化の役割解明 4. がん悪性化に関わる遺伝子発現制御機構の解明 5. がん細胞における上皮間葉転換の役割解明 |
| 伊藤 素 行 生化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞間情報伝達機構 2. 神経細胞の分化と行動の発達機構 3. 細胞移動機構: 形態形成とがん化 4. 細胞間情報伝達と代謝・老化 5. 老化と記憶低下 |

| 指導教授 研究室名 | 研 究 テ ー マ |
|-------------------|--|
| 川 島 博 人 免疫微生物学 | 1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. スギ花粉アレルゲンの糖鎖修飾に着目した新規花粉症治療法の開発 3. 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた大腸炎発症メカニズムの解明 4. 細菌感染と感染宿主応答の分子機構の解明 5. シャペロンによる機能蛋白質認識機構の解明 6. 抗菌薬耐性に関する研究 |
| 鈴 木 秀 幸 遺伝子創薬学 | 1. オミックス解析（トランスクリプトーム及びメタボローム統合解析）に必要な解析ソフトの開発 2. オミックス解析技術を利用した機能性代謝物の生合成研究 3. 機能性代謝物のメタボローム解析 |
| 中 山 学 遺伝子創薬学 | 1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンデシヨナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究 |
| 戸井田 敏彦 病態分析化学 | 1. 網羅的複合糖質糖鎖分析系の確立 2. 硫酸化多糖類の免疫系への作用 3. ポリアミンによる蛋白質合成促進機序 4. NMDA 受容体の構造・機能解析とチャネルブロッカーの開発 5. 脳梗塞とアクロレイン |
| ※荒 野 泰 分子画像薬品学 | 1. テクネチウム錯体の新規設計を基盤とする SPECT プロープの開発 2. 抗体やペプチドを利用した DDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプロープの開発 4. ガリウムを用いた PET プロープの新規開発 |
| 小 椋 康 光 予防薬学 | 1. 生体による類金属元素代謝の分子基盤の解明 2. 重金属結合依存的な転写誘導機構の解明 3. 細胞分化に伴うメタローム解析とその応用 4. レアメタルのリスクアセスメント 5. 疾病の断・治療のための新規機能性分子の開発 6. タンパク質の発現・輸送を可視化する蛍光ラベル化法の開発 7. 光化学反応に関する研究と生体への応用 |
| 中 島 大 介 環境リスク | 1. 多種・新規化学物質暴露の包括的把握・網羅的分析手法の開発に関する研究 2. 事故・災害時等の緊急環境調査手法の高度化に関する研究 3. 都市大気中の有害化学物質の長期トレンドに関する研究 4. 分析毒性学的手法を用いた半金属元素の代謝機構の解明 |
| 青 木 康 展 環境リスク | 1. 高感受性動物を用いた環境化学物質の体内突然変異（in vivo mutagenesis）発現メカニズムの解明 2. 環境変異原物質を検出するための遺伝子導入魚の開発 3. ダイオキシン類の毒性発現に関与する遺伝子発現調節機構の解明 4. 環境有害因子の毒性発現およびその防御機構の解明 |

| 指導教授 研究室名 | 研 究 テ ー マ |
|------------------|---|
| 村山俊彦 薬効薬理学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. セラミド代謝系酵素群の分子薬理学的解析と創薬標的としての薬理学的検証 2. セラミド, スフィンゴ脂質やその誘導体の生理・薬理作用の解析 3. ニーマンピック病, 多発性硬化症, 特発性肺線維症 (IPF) などの希少・難治性疾患に対する治療薬の開発 4. 生体内情報伝達物質とその受容体, シグナル伝達機構, 細胞応答に関する研究 5. ホスホリパーゼの活性制御機構, 調節因子に関する分子薬理学的研究 |
| 秋田英万 薬物学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 低分子・高分子の体内・細胞内動態制御ナノ技術の開発 2. 癌免疫療法・遺伝子/核酸治療・診断法の開発 3. 人工染色体ベクターを用いて作製した薬物動態関連因子ヒト化マウスの代謝動態研究への応用 4. 三次元培養したヒト肝ガン由来細胞の核内受容体研究への応用 5. 次代創薬研究の技術基盤としての新規ヒト不死化細胞を用いたヒトモデルの確立 |
| 伊藤晃成 生物薬剤学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究 |
| 高野博之 分子心血管薬理学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究 6. 高血圧治療や心不全治療の最適化を目指すための臨床研究 7. 心筋症・心筋炎の病理学的解析 |
| 佐藤信範 社会薬学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師及び薬局機能に関する研究 2. 後発医薬品の評価に関する研究 3. 医薬品情報の収集・評価・提供に関する研究 4. 小中高生への薬学的視点からの教育に関する研究 5. 薬事及び保険制度に関する研究 |
| 関根祐子 実務薬学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 関節リウマチ患者における手術前後の抗リウマチ薬投与の影響に関する研究 2. 先発点眼薬と後発点眼薬の薬効評価に関する研究 |
| 樋坂章博 臨床薬理学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. モデリングとシミュレーションを適用した臨床薬理学的研究 2. アルツハイマー病, メタボリックシンドローム等の疾患モデリングの研究 3. メタボローム解析を適用したガン増殖抑制に関する研究 |
| 石井伊都子 医療薬学 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高脂血症における薬物動態に関する研究 2. 血管の異常に関する薬物代謝の変化 3. 薬物の投与設計に関する研究 4. 薬物治療の個別最適化のための PGx 研究 5. 薬物相互作用に関する研究 |